

令和 8 年 7 月 24 日

9 時 18 分 受 付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17 番 氏名 岡 本 正 友

答弁を求める者 ☐市長 ☐教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(☐をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員長

発言項目及び要旨

1・人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりについて

わが国では、人口減少と少子高齢化が進む中、地方自治体には、限られた財源や人的資源を有効に活用し、将来にわたり持続可能な行政運営を進めることが求められている。本市においても、人口減少を見据えたまちづくりと市政運営は重要な課題である。

また、市長は市民との対話を重視した市政運営を掲げており、人口減少時代だからこそ、市民との対話を通じて課題や将来像を共有し、協働によるまちづくりを進めることが重要であると考えます。以上の観点から質す。

(1)市民との対話を踏まえた今後の市政運営について

先日開催された「市長と語る会」では、人口減少への危機感をはじめ、行政運営、一次産業、教育、医療、観光、駅前整備など、市政全般にわたる多くの意見や提案が寄せられた。中でも、昨年度の出生数が200人を下回る中、公共施設整備の見直しや行政のスリム化など、人口減少を見据えた市政運営を求める意見が印象的であった。以上を踏まえ、市長の考えを伺う。

- ① 人口減少が加速する中、今後の市政において最も優先して取り組むべき施策をどのように位置付けているのか問う。
- ② 市長と語る会で出された意見を、今後どのように政策へ反映していく考えか問う。
- ③ 人口減少が進む中で、大型事業の必要性や優先順位について、市民の理解と合意形成をどのように図っていく考えか問う。

(2)誰もが安心して暮らせる終活支援（おひとりさま支援条例）について

先般、神奈川県大和市を視察し、「終活支援条例」や「おひとりさま支援」の取組について学んだ。身寄りのない高齢者や単身世帯の増加は、本市においても今後ますます大きな課題になると考える。また、私自身も高齢者の方々から、墓じまいや家じまい、人生の最終段階に向けた準備について相談を受ける機会が増えており、不安を抱える市民は少なくないと感じている。誰もが安心して人生の最期を迎えられるよう、終活を支える環境づくりが必要であると考え、以下について問う。

- ① 本市における単身高齢者及び身寄りのない高齢者の現状をどのように認識しているか問う。
- ② 終活支援相談やエンディングノートなどの取組について、市民への周知・普及をどのように進めていく考えか問う。
- ③ 大和市のような「おひとりさま支援」の仕組みを研究し、本市版の支援制度を構築する考えはないか問う。

(3)地域遺産を活かしたまちづくりについて

岩手県遠野市では、「地域遺産制度」を創設し、文化財だけでなく、地域住民が守り伝えてきた風景や祭り、建物、生活文化などを地域の財産として位置付け、住民主体による保存・活用を進めている。本市においても、前市政で地域のお宝を掘り起こし、まちづくりに生かす取組が進められたが、その成果が現在の市政にどのように継承・活用されているのか見えにくい状況にある。人口減少が進む中、地域の歴史や文化を次世代へ継承し、地域活性化につなげる取組は重要であると考え、以下について問う。

- ① 本市は県内 8 市と比較して指定文化財が少ない状況にあるが、地域に埋もれた歴史・文化資源をどのように掘り起こし、保存・活用していく考えはあるか問う。
- ② 遠野市の地域遺産制度のように、市民参加による地域遺産登録制度を創設する考えはあるか問う。
- ③ 前市政で取り組んだ「浜田のお宝」の調査成果を、現在の市政や地域づくりにどのように生かしているか問う。
- ④ 昨年度の「石州浜っ子夏まつり」では、地域の盆踊りなど伝統芸能を一堂に集めた取組が行われたが、一過性のイベントに終わらせることなく、地域文化の継承や担い手育成につなげるため、今後どのような施策を展開していく考えか問う。